

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2775501337
法人名	有限会社 愛生会ケアサービス
事業所名	ケアホーム愛生(たかやす)
訪問調査日	平成 21 年 3 月 11日
評価確定日	平成 21 年 4 月 6日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2775501337
法人名	有限会社 愛生会ケアサービス
事業所名	ケアホーム愛生(たかやす)
所在地	大阪府八尾市山本高安町2丁目3番8号 (電 話) 072-998-2874

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月6日

【情報提供票より】(21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人	
職員数	17人	常勤	2 人, 非常勤 15 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺き		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,660 円			

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	85.1 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中のりクリニック、若草第一病院、八尾徳州会総合病院、もりかわ歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年8月に開設の当ホームは、周囲に広い庭のある木造住宅を改装して、1ユニット定員8名のグループホームとした。、長年住み慣れた「我が家」のような雰囲気である。職員は開設時以来変わっていない。代表者の示す理念、「利用者にとって、職員にとって、ここを”帰りたい”と想う我が家にする」が浸透していて、ホームの全ての人明るく、日々の生活、日々の仕事を楽しんでいる。職員の配置にも余裕があり、介護の質も高い。経営母体である「有限会社愛生会ケアサービス」は当ホームのほかにも、もう一つのグループホームと、訪問介護、居宅介護支援の事業も行っており、地域福祉に関し広く貢献している。医療面では、月2回の訪問診療、週1回の看護師のケアがあり、健康管理にも安心感がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①ホームだよりを毎月発行して家族との交流を深めること。②外部研修参加報告書を作成して、研修内容を全員で共有する伝達様式を創ることであった。①は行事の少ない月などで抜けることもあるが、ホームの様子をほぼ伝える程度には発行し家族に送っている。②は研修内容をミーティングで報告すると共に、ファイルして閲覧できるよう改善した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で話し合い管理者がまとめて記入した。改善点を見出し全員で改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に一回開かれている。現在までのところ、ホームからの報告が主となっている。自治会代表、民生委員。老人会代表のほか、家族代表とホームから事務長、管理者が出席している。ホームに対する要望や提案はあまり出ていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所時に報告、話し合いのほか、「ホームだより」に利用者の暮らしぶりや行事の様子を写真と共に送っている。運営推進会議に出席した家族代表からは努めて意見、苦情などを聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは自治会に加入し地域の一員としての連携を行っている。地域のボランティアによる慰問訪問も受けていて利用者を喜ばせている。ホームでの行事に近隣の人が参加することもある。ホームは地域では認められており、緊急の依頼事を受けることもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「利用者にとって、職員にとって、ここを『帰りたい』と想う我が家(ホーム)にする」。この理念はケアホーム愛生グループの共通理念であるが地域住民のことが触れられていない。	○	「地域住民との交流の下で」の意味を含めた言葉を付加した新しい理念を作り上げることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム玄関に掲示し管理者、および職員は理念を常に意識して日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域自治会に加入し地域の行事における役割を果たしている。また、地域のボランティアを受け入れホーム利用者を楽しませている。地域の緊急時の役割負担も進んで行っているが、さらにつきあいを深める努力をされたら如何がかとと思う。	○	地域に密着したホームとするために、当ホームとして高齢者、および認知症ケアに関する知識を地域に還元することを期待したい。地域住民の相談にのる体制を作ることであり、さらに、地域の協力を期待できると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は自己、外部評価実施の意義を理解していて、全員で話し合い自己評価し、そこで、見出した問題点の改善に取り組んでいる。外部評価に対しても全員で真摯に受け止め、ケアの質向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開かれている運営推進会議を有意義なものにするため努力している。出席者の提案、苦情等引き出すよう努めている。今までのところでは、ホームよりの報告、行事予定の説明等が主となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の関係者とは事務長が折にふれ訪問し連携を深めている。市職員の新人研修の受け入れも考慮している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への近況報告はおおむね1～2か月に一回発行する「ホームだより」と家族の来所時に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族代表の意見、苦情等引き出す努力を行っている。また、意見箱を設置したり、外部の相談窓口も家族には公表している。意見苦情があれば、すぐに対応する用意がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員とは常に話し合いの機会を持っている。ストレスを溜めないよう配慮している。今までのところ、開所以来離職者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、計画担当者にはリーダー研修を、その他職員は偏ることなく外部研修を受けられるよう、費用も含め援助している。社内研修は全員参加を、新人には、OJTでレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会の施設部会に加入して情報交換や勉強会に参加している。同業者との交流は今のところ行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分な説明を行い、必要な場合はショートステイも行っている。他の利用者とも馴染めるよう十分な時間と、納得を得てから、入所を決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力に応じ掃除、片付け、洗濯物干し、取り入れ等職員と一緒にしている。それらの中で、人生の先輩から職員が学ぶことが多い。料理のこと、冠婚葬祭のこと、趣味のこと等良い関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から職員は利用者に寄り添って生活を共にしている。その場その場で、利用者の意向がくみ取れるようになっていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身の状態、家族の希望などアセスメントを丁寧に行い、担当者会議を持ち、本人、家族その他の関係者とも話し合い、利用者ごとの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在の利用者の心身状況はおおむね安定しているので、介護認定期間に合わせた計画見直しを行っている。変化があればすぐに計画変更を行うが、今後は変化がなくても3か月ごとに見直しを行う準備をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の特別な外出、入院時の付添い、ホームから在宅へのシフト時のマネジメント等その時々々の要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者はホームの協力医療機関をかかりつけ医とすることに同意している。一部以前からのかかりつけ医に受診することがあり、その場合家族の都合の悪い時など、送迎の支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については一定のガイドラインを設け、重要事項説明書に記載し理解を得ている。本人、家族、かかりつけ医と話し合う機会を持つようになっているが最終的には、家族の希望に添えるよう努力したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各利用者の希望に沿った接し方をされていて、人生の先輩としての配慮がなされている。入浴、排せつも同様である。個人情報の取扱いは適正に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段からの生活リズムが崩れない程度にその日の体調や、年齢に応じたその人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専門のスタッフが行っている。可能な限り利用者の好みにあわせたメニューを用意し、咀嚼能力に合わせて刻み食や、さらに、柔らかい食事を用意している。盛り付けも美しく、「食事はおいしく、楽しく」とのホームの思いがこもっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日、時間帯は決めているが、その中で利用者の希望にあわせて時間帯をかえている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に本人の経歴や趣味、特技などを聞きとり、できること、好きなことをやれるよう支援している。描いたり、折ったり、弾いたり、それぞれの楽しみがあり、生き生きとした姿がうかがえる。また、みんなで楽しめることも模索している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として毎日散歩に出かけている。ホームの前の道はきれいな川があり、桜の並木があり、近くに公園もある。なるべく戸外へ出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はすべて鍵はかかっている。いつでも出ようとすれば出られるようになっている。安全性、危険性にも問題はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のための水、食料、毛布等必需品の備蓄はされている。災害時のマニュアルもできている。避難訓練の頻度は少ない。	○	避難訓練は少なくとも年2回はやるのが望ましい。消防署の協力と指導を受けておくのが良い。さらに、近隣の人々の応援なども得られるような体制づくりも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事が提供されている。食事量、水分摂取量もチェックされていて安心である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大型のテレビとソファが置かれている。壁には季節感のある手作りの作品が掛けられている。軽い運動をしたり、みんなで歌を歌ったり、ゆったりとしたり、会話を楽しんだりしている。風呂、トイレは清潔である。庭に出て土に親しむこともできる。花づくり、野菜作りも行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可傾式のベッド、収納棚、クッションのきいた椅子が配置されているほかは、利用者が使い慣れた調度品等を持ち込んでいる。工夫のこらした天窓から外の空気が感じられるような明かりが入るのがすがすがしい。		